

富山県の青春時代 吉田 實知事の時代

高岡ライオンズクラブメンバースピーチ L四津井 宏至 2023年2月3日 (金)

西暦 元号年 年齢

南原繁(元東大総長) が射水郡長であった時代 (1917・大正6年~8年) 2年間の仕事
射水平野の乾田化事業、(大正15年~昭和50年までかかって完成)

昭和14年の富山県人誌に 射水平野の乾田地の工業化、放生津潟の港湾化、伏木港、岩瀬港、富山飛行場を活用した鉱業地帯の開発

1910 明治43年 0 中農 吉田元吉、母久の長男として 大島村小林444番地で誕生

父 日露戦争で二百三高地の戦いで決死隊に加わり負傷アメリカの赤十字病院で手当を受けるもダムダム弾の後遺症が残り晩婚
福野農学校の卒業生であり 射水郡農業教師、射水郡農事試験場長、県、郡の農業会役員、村議員にも4回当選。昭和32年85歳没

母 同志社大卒 高岡女学校の教師 高岡市横田の学校まで毎日往復4里を歩いて通勤。 後半は鉄道ができ大門駅から一里半を
歩いて通った。 着るものは質素に。着物にける金は栄養を摂る食べ物に。高岡の学海堂から3日に一回の割りて本が届いた。

吉田實も 高岡中学まで往復3里を歩き 自転車通学は許されなかった。 母は健康のために私を歩かせたのだろう。

1916 大正5年 6 大島村立大島小学校入学

1922 大正11年 12 高岡中学入学 渾名はブル 頭が大きく眼光が鋭い 大正12 9月関東大震災

1927 昭和2年 17 富山高等学校理科乙類へ入学 昭和2 世界金融恐慌

1930 昭和5年 20 九州帝国大学農学部農学科へ入学 昭和6 9月満洲事変

1934 昭和9年 24 東京帝国大学経済学部経済学科へ入学 昭和10年 8月現富山県庁舎竣工

東大学生時代に農学部前の書店を譲り受けて**青々堂書店を経営する**。目的は稀覯書の入手にあった。 **4年間教師**

1936 昭和11年 26 東京帝国大学卒業 福野農業高校教諭に 昭和11 2, 26事件 日満産業博覧会

昭和11年は庄川の大洪水で射水郡は大きな被害があり両親は小作争議に悩まされていた。両親は帰郷を勧め 福野農学校の教師になる
僅か2年在任 渾名は河童 人間離れた人という意味。大陸雄飛の夢を実現する為に退職。

1037 昭和12年 27 富山県より農業状況視察のため満洲へ出張を命ぜらる 昭和12 日華事変始る 日独伊防共協定

1039 昭和14年 29 渋谷郁子と結婚

福野高校教諭、富山県染織講習所教授嘱託を辞す **7年間大陸**

9月 大興鮮蒙交易(株)に入社 天津、北京、張家口支店長をへて 常務取締役兼蒙疆北支総監督

富山高校の柔道部の先輩が京城の丁字屋デパートの常務の誘いで兼ねてより大陸雄飛の希望に添って朝鮮総督府が造った会社に入社
蒙疆と内地の輸出入に従事 後の錚錚たる人物との交流があった。 支那、朝鮮の古美術品を蒐集するも敗戦で持ち帰れず。

三井物産に次ぐ業績 張家口商工会議所副会頭 ほか多数の組合役員

1942 昭和17年 32 長女 道子生まれる 蒙古連合自治政府が日本の指導でできる。

1944 昭和19年 34 次女 朝子生まれる

2月 召集により 河北省定県の驚武体908部隊に入隊 昭和20年 終戦

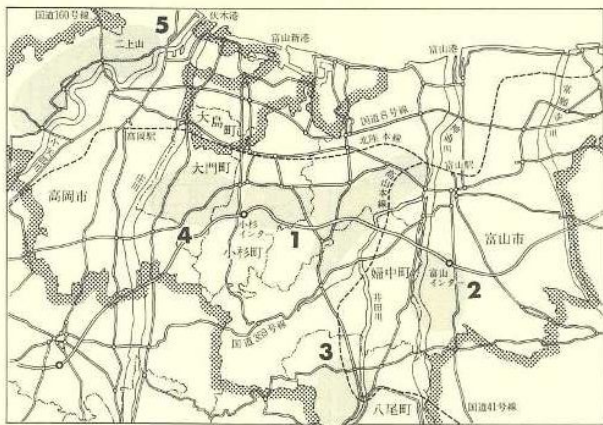
1946	昭和21年	36	4月	中国より帰還 妻 郁子 県立小杉農学校教諭となる 昭和21年春に 上海から鹿児島に引き上げてきた。家では死んだものとされていたが母は生きて帰ると思っていた。 帰ってすぐに村の農業指導者に押される。 (農学博士、経済学士)		
1947	昭和22年	37	2月	長女 道子 百日咳で死亡		9年間村長
			4月	大島村長就任 8月大島村農協組合長 全国食糧調整委員協議会評議員 11月 長男 力生まれる		
1948	昭和23年	38	6月	射水郡農協組合連絡協議会長 富山県地方労働委員会公益委員に任命(労働問題に経験を積む)		
			8月	射水郡農業調整委員連絡協議会長		
1951	昭和26年	41		大島村村長二期目		
1952	昭和27年	42	3月	3女典子生まれる	昭和27年 7月	北日本放送開局
1953	昭和28年	43	3月	次男 太生まれる 吉田は農協再建に残した足跡は大きい		
1956	昭和31年	46	8月	妻郁子 小杉高校教諭退職	昭和31年 12月	日本国連に加入 知事13年間
戦後の県知事は10年間に亘って役人の高辻知事と成田副知事が務め後任に副知事自民党公認の成田候補が立った。 結果48,000票の大差で吉田が勝利。 自民党とのしこりも一年後に解消す。						
			10月	富山県知事就任 (44年12月まで四期連続当選)		
1957	昭和32年	47	9月	父元吉死亡(85歳) 富山新港計画発表	昭和32年	高岡で原子力利用博覧会
1959	昭和34年	49	7月	「野に山に海に」を富山新聞社から発刊 ビジョンなきところ民亡ぶ ソロモンの言葉を引用		
				野の夢 連続豊作を続ける為に有畜農業の発達 流水客土、河川総合開発、射水平野の乾田化 太閤山ニュータウン造成		
				山の夢 立山、黒部山岳の総合開発 観光開発立山観光の大衆化 電力開発		
				海の夢 富山新港の建設 日本海側港湾としての地の利		
当時 百万都市構想を提唱した人 昭和30年 佐伯宗義 昭和35年 正力松太郎 高岡に読売開館を建築						
1960	昭和35年	50	10月	富山県知事再選 3,000を越える木造橋の永久橋化	昭和35年	立山黒部有峰開発(株)設立
1961	昭和36年	51	6月	地方自治体国際連合会議に日本代表団長として渡米、訪欧	4月	教育7, 3体制発足(実業高校の増設)
			9月	富山新港起工式 12月 イタイイタイ病問題起る	36~38まで	中沖豊 財政部長を務める。
1962	昭和37年	52		ワシントン会議の報告書を日本地方自治研究所から発刊	4月	富山県立大谷技術短大開学
			4月	欧米旅行記「空間の国と時間の国」を 北隆館から発刊	10月	有峰林道完成
1963	昭和38年	53	1月	上京の帰途 38豪雪に遭い 新潟で列車立ち往生で年始を車中で過ごす		
			6月	第二次訪ソ経済使節団顧問として訪ソ 6月 黒四ダム完成 8月 富山空港開港		
1964	昭和39年	54	3月	富山、高岡新産業都市に指定 8月 県民会館完成	10月	富山 金沢間国鉄電化
			10月	富山県知事3選		
1965	昭和40年	55	4月	全国知事会代表としてブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン、チリ、ペルー、メキシコ、アメリカ、カナダ 歴訪 「富山県史」編纂準備室開設 昭和60年刊行 11月 沖縄摩文仁の丘に立山の塔建立		
1966	昭和41年	56	1月	旅行記「ラテンアメリカ報告」を青林書林新社から発刊		

1967 昭和42年	57	6月	ハバロフスクの日本海沿岸貿易見本市に出展の為訪ソ	11月	「望ましき富山県民像」制定
1968 昭和43年	58	1月	旅行記「シベリア探訪」を青林書院新車から発刊	11月	富山新港の港口切断
		10月	富山県知事4選	5月	イタイタイ病を公害病に認定
			新港周辺の工場誘致 富山共同火力発電所、住友化学を核として 後に52社が進出		
1969 昭和44年	59	6月	富山県農協組合中央会会長（昭和56年6月まで）	4月	大島村が町に昇格
		11月	全国知事代表としてベトナム訪問	5月	天皇陛下頼成山植樹祭来県 議員13年間
		12月	富山県知事辞任 衆議院議員に当選 三木派に属す。 自由民主党農林副部会長、災害対策小委員長	10月	北陸線全線電化完成
			吉田県政13年間で県の歳入が6倍になり 高度成長、農工一体化が実現	12月	立山トンネル貫通
1971 昭和46年	61	9月	川崎訪中団副団長として中国訪問（広州、北京、上海）	2月	富山県議会議事堂完成
		12月	旅行記「中国—1972年秋」をニューサイエンス社から発刊	6月	立山、黒部アルペンルート全線開通
1972 昭和47年	62	12月	衆議院議員選挙に落選	5月	沖縄本土復帰 9月 日中国交回復
1973 昭和48年	63	3月	母 久死亡（88歳）	9月	置県90周年 10月 石油ショック
1974 昭和49年	64	7月	参議院議員（富山地方区） 当選 北陸開発審議会副委員長	12月	三木内閣発足
1975 昭和50年	65		自由民主党総合農政調査会副会長	10月	富山医科薬科大学開学
1976 昭和51年	66		自由民主党遊説局長 参議院自由民主党副幹事長	2月	冬季おおやま国体開催
1977 昭和52年	67		参議院文教委員長	1月	豪雪
		8月	自由民主党富山県支部連合会長 自由民主党文教制度調査会副会長		
1978 昭和53年	68	7月	モンゴル人民大会議長の招待で訪問	8月	日中平和友好条約調印
1979 昭和54年	69	9月	旅行記「モンゴル発見」を青林書院新車から発刊		大平内閣
			物価対策特別委員長 エネルギー対策特別委員長		
1980 昭和55年	70	6月	旅行記「モンゴル」を古今書院から発刊	4月	射水線廃止 3月 新農協会館竣工
		6月	参議院議員（富山地方区）に再選		
1981 昭和56年	71		7月大平首相死去 8月佐伯宗義死去	1月	豪雪 7月 県立近代美術館開館
1982 昭和57年	72	4月	勲二等旭日重光章受章		
		11月	虎ノ門病院川崎分院で死去	10月	鈴木善幸首相退陣

参考図書 吉田 實とその時代
野に山に海に

昭和61年11月3日発行 編纂 吉田實伝記編纂会
昭和34年7月7日発行 吉田 實 著

発行 吉田實顕彰会 制作 桂書房
発行 富山日日新聞社



開発区の名称	関係市町
1. 奥羽・射水丘陵開発区	富山市、婦中町、小杉町
2. 富山空港周辺開発区	富山市
3. 八尾中核工業団地周辺開発区	八尾町
4. 小杉流通業務団地周辺開発区	小杉町、大門町
5. 高岡西山地域開発区	高岡市

図4 テクノポリス開発区位置図(富山県企画調整室資料)



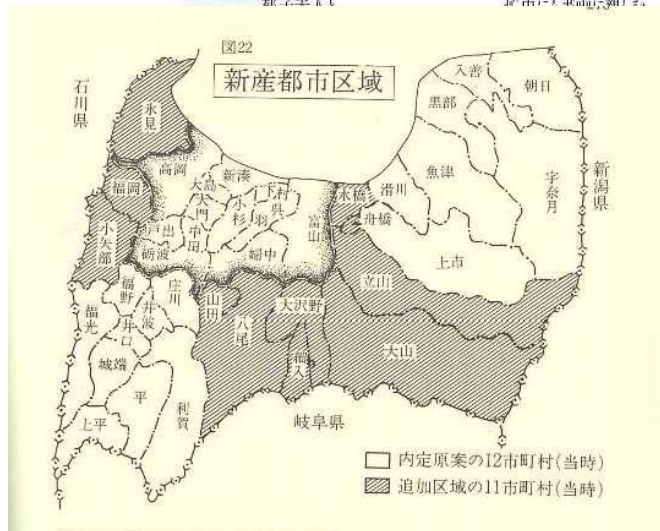
モンゴル人民大会議議長に招待されて(昭和53年)



紅子とまゐ



山由一と重直、和子とまゐ



知事選の時の吉田一家(右から実 妻郁子(38歳) 二男太(3歳) 母久(71歳) 長男力(8歳) 三女典子(4歳) 二女朝子(12歳)(北日本新聞)



野、矢野と山、成のころ



空前のベストセラーとなった『野に山に海に』(昭和39年刊)